

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業No.41-7

記入日 平成25年5月22日

点検日 平成25年5月22日

事務事業(予算)名	土地区画整理事務に要する経費			作成課・係	画課まちづくり室										
政策名	3.1 魅力あるまちづくりを進めます			施策	3.1.3 質の高い既存市街地の整備		基本事業	3.1.3.1 都市軸の整備							
関連計画・根拠法令等	①	②	③	④											
事業区分	継続	前回総合評価	6.精査検証	実施計画掲載	無	行革推進対象	無	事業実施主体	3.市	事業開始年度	平成15年度以前	事業終了予定年度	平成33年度以降		
関連類似事業名	なし							予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	2	予算コード	0103

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業 都市軸形成促進事業 近隣商業拠点整備事業	①事業数		業務取得
		②		
		③		
(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典	
	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業、都市軸形成促進事業及び近隣商業拠点都市機能誘導整備事業を遂行するために必要な経費の支出	①経費	業務取得	
		②		
		③		
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	成果指標 (基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業、都市軸形成促進事業及び近隣商業拠点都市機能誘導整備事業の着実な遂行	①都市軸形成促進事業整備箇所数(完了事業数)	業務取得	
		②近隣商業拠点整備事業整備箇所数(完了事業数)	業務取得	
		③		
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
	市街地整備事業を進めることにより、賑わいのある中心市街地及び質の高い居住環境を整備する。	①鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	市民意識調査	
		②既存市街地整備事業着手地区数	業務取得	
		③		

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(年度) 今後の計画総額
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	
コスト・指標	(1)総事業費 自動計算	千円	937	924	908	963	1,111	0
	①国庫支出金	千円						
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円						
	④一般財源	千円	937	924	908	963	1111	
	(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間/年	806	935	1051	1688	0	0
	①正職員(時間内)	時間/年	594	800	900	1500		
	②正職員(時間外)	時間/年	18	38	54	91		
	③非常勤職員	時間/年	194	97	97	97		

3. 指標の推移等		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
(1)対象指標	①	事業	3	3	3	3	3	
	②							
	③							
(2)活動指標	①	千円	957	937	924	908	963	
	②							
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果指標等	①	箇所	1	1	1	1	1	1
	②	箇所	0	0	0	0	0	0
	③							
(4)施策成果指標	①	%	45.3	—	—	—	—	50.0
	②	箇所	1	1	2	2	2	1
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	土地区画整理等市街地整備事業は、まちづくりの効果的な手法である。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	土地区画整理事業の完了した地区においては、活性化が図られている。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	今後も、まちづくりのため、土地区画整理等の市街地整備事業は必要とされる。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	土地区画整理という手法については、一定の理解が得られる。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 土地区画整理事業が施行される地元市として、事業効果の周知や誘導といった役割を担う必要がある。また、事業開始後は、土地区画整理法に基づく調整を行う。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 都市軸の整備や、安心・安全なまちづくりに寄与している。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 市の基本計画や、都市マスタープランにのっとったものであり、極めて公平である。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 市のまちづくりが完了するまで、関与する必要がある。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎではないか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ さまざまな事業手法を適用することにより、コストパフォーマンスの高い事業を展開している。
	(6)総合評価	6: 精査・検証	(今後の方向内容) 市の基本計画に基づくまちづくり事業の完了まで、事業を行う。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	職員の知識の向上を図るとともに、時代に適合したコンパクトなまちづくり手法への転換を図る。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	職員の知識の向上により、業務の適正な遂行が可能となってきている。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	引き続き、職員の知識の向上を図るとともに、時代に適合したコンパクトなまちづくり手法への転換を図る。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業(予算)名	東武鎌ヶ谷駅東口整備に要する経費				作成課・係	画課まちづくり室									
政策名	3.1 魅力あるまちづくりを進めます				施策	3.1.3 質の高い既存市街地の整備		基本事業	3.1.3.1 都市軸の整備						
関連計画・根拠法令等	①土地区画整理法		②		③		④								
事業区分	継続	前回総合評価	6.精査検証	実施計画掲載	有	行革推進対象	無	事業実施主体	3.市		事業開始年度	平成15年度以前	事業終了予定年度	平成33年度以降	
関連類似事業名	なし				予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	2	予算コード	0302			

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	東武鎌ヶ谷駅東口土地区画整理事業地区		①事業数	業務取得
			②	
			③	
	(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典
	東武鎌ヶ谷駅東口土地区画整理事業を遂行するため及び事業効果の発現に必要な経費の支出		①経費	業務取得
			②	
			③	
	(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	(基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典
	東武鎌ヶ谷駅東口土地区画整理事業の着実な遂行と事業効果の発現		①都市軸形成促進事業整備箇所数(完了事業数)	業務取得
			②イルミネーション関係イベントの開催数	業務取得
			③	
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
賑わいと魅力あふれる中心市街地の形成を図る		①鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	市民意識調査	
		②既存市街地整備事業着手地区数	業務取得	
		③		

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(年度) 今後の計画総額
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	
(1)総事業費 自動計算	①国庫支出金	千円	35,858	35,087	33,831	933	1,700	0
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円						
	④一般財源	千円	35,858	35,087	33,831	933	1,700	
	(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間/年	522	524	840	615	0	0
	①正職員(時間内)	時間/年	500	500	800	600		
	②正職員(時間外)	時間/年	22	24	40	15		
	③非常勤職員	時間/年				0		

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	事業	1	1	1	1	1
②								
③								
(2)活動指標	①	千円	37,163	35,858	35,087	33,831	933	
	②							
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果 指標等	①	箇所	1	1	1	1	1	1
	②	回	2	2	2	2	2	2
	③							
(4)施策成果指標	①	%	45.3	—	—	—	—	50.0
	②	箇所	1	1	2	2	2	1
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	ハード面だけでなく、ソフト面での対応が期待される。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	整備された東武鎌ヶ谷駅東口地区の活性化に寄与できている。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	今後も、中心市街地の活性化は必要である。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	どのようなレベルまで市が関与するかが課題である。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ ハード面の整備だけでなく、ソフト面での施策を行うことにより、事業効果が目に見える形で表れる。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 完成したインフラを積極的に活用することにより、本来事業が意図していた効果に結びつけることができる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 整備したインフラについては、公共的なものであり、使用する人を限定していない。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 地域住民が活性化に一定の役割を担えるようになった時点で、行政の財政的な関与は縮小できるが、ソフト面での支援は今後も必要である。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎているか？ 事業費、所要時間を削減する手段・方法はないか？ 中心市街地の活性化について、地域の活動が軌道に乗った時点でコストの削減は可能である。
	(6)総合評価	6: 精査・検証	(今後の方向内容) 効果とコスト削減に配慮しつつ、地域との協働で施策を展開していく。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	自立した地域の組織との連携を図り、経費の削減の検討を行う。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	最低限の費用負担と、協働での取組を意識した活動(クリスマスイベント)の実施に繋げることが出来た。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	さらに、自立した地域の組織との連携を図り、経費の削減の検討を行う。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業No.41-10

記入日 平成25年 5月22日

点検日 平成25年 5月22日

事務事業(予算)名	都市軸形成促進事業に要する経費				作成課・係	画課まちづくり室									
政策名	2.3 安全に暮らせる社会システムをつくります				施策	3.1.3 質の高い既成市街地の整備		基本事業	3.1.3.1 都市軸の整備						
関連計画・根拠法令等	①	②	③	④											
事業区分	継続	前回総合評価	7.拡充	実施計画掲載	無	行革推進対象	無	事業実施主体	3.市		事業開始年度	平成15年度以前	事業終了予定年度	平成33年度以降	
関連類似事業名	なし				予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	2	予算コード	0403			

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	都市軸形成促進事業		①事業数	業務取得
			②	
		③		
(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典	
都市軸形成促進事業を遂行するために必要な経費の支出 ワークショップの運営 地域設立組織との協議		①ワークショップ・協議開催数	業務取得	
		②		
	③			
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	基本事業成果指標等	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
都市軸形成促進事業の着実な遂行		①都市軸形成促進事業整備事業箇所数(完了事業数)	業務取得	
		②		
	③			
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
地域の安全や利便性、賑わいといった住環境において、質の高い市街地の形成を図る		①鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	市民意識調査	
		②既成市街地整備事業着手地区数	業務取得	
	③			

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(年度) 今後の計画総額
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	
コスト・実績の推移	(1)総事業費 自動計算	千円	1,728	1,143	1,515	261	1,010	0
	①国庫支出金	千円						
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円						
	④一般財源	千円	1,728	1,143	1,515	261	1,010	
	(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間/年	5,063	4,227	2,809	2,070	0	0
	①正職員(時間内)	時間/年	4,385	3,600	2,200	1,700		
	②正職員(時間外)	時間/年	193	142	124	79		
	③非常勤職員	時間/年	485	485	485	291		

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(30年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	事業	2	2	2	2	2
②								
③								
(2)活動指標	①	回	8	6	5	2	1	
	②							
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果 指標等	①	箇所	0	0	0	0	0	2
	②							
	③							
(4)施策成果指標	①	%	45.3	—	—	—	—	(平成27年度)50
	②	箇所	1	1	2	2	2	(平成27年度)1
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	中心市街地の活性化に対するニーズや連立事業に伴う市街地の整備の必要が生じた。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	地域住民を巻き込んだ、協働による構想及びみち並み保存計画が策定され、現在、みち並み保存計画に沿った市民活動が行われている。(鎌ヶ谷駅西口)。ワークショップを実施し、整備構想の素案を作成した。(初富駅)
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	整備構想の策定には、意見の反映と実現化に向けたさまざまな整備手法の検討が必要である。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	事業の推進のためには、協働が必要である。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 市街地の整備は本来自治体の責務であり、市民と協働で計画策定や有効な事業の推進手法の検討を行うために行政の関与は必要である。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 市街地を整備することにより、安全で安心なまちづくりを実現することができ、地域の活性化にもつながる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 市の基本計画や都市マスタープランに位置づけられたものであり、極めて公平である。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 都市軸を形成する事業を行わない場合、無秩序なまちが出来、市の衰退につながる。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎではないか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 最適な事業手法を検討すること、ソフト面での施策を住民と協働で行うことで、コスト削減を図っている。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 今後も事業は必要であり、サポートしてきた地域の組織や地域で設立された協議会と連携を密にする必要がある。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	自主的な組織と連携を図り、できる限りのサポートを行い適切な経費を支出する。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	自主的な組織と連携を図り、駅周辺における植栽活動や地域コミュニティー紙面の発行をサポートすることができた。
	(3)平成25年度に取り組む改革・改善内容	サポートしてきた地域の組織と地域で設立された協議会が連携を図り、地域を活性化へ繋がるようサポートする。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業(予算)名	都市軸形成促進事業			作成課・係	国課まちづくり室									
政策名	3.1 魅力あるまちづくりを進めます			施策	3.1.3 質の高い既成市街地の整備		基本事業	3.1.3.1 都市軸の整備						
関連計画・根拠法令等	①道路法		②都市計画法		③中心市街地活性化法		④							
事業区分	継続	前回総合評価	7.拡充	実施計画掲載	有	行革推進対象	無	事業実施主体	3.市		事業開始年度	平成17年度	事業終了予定年度	平成33年度以降
関連類似事業名	なし			予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	2	予算コード	3303			

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	①東武鎌ヶ谷駅西側の都市計画道路3・4・4号線、3・4・17号線及び市道22号線、並びに東武野田線で囲まれた地区内にある市道30号線、市道3624号線、市道3670号線及び駅前広場(対象面積約4ha)等の道路延長 ②初富駅前広場		①道路延長 ②面積 ③	業務取得 業務取得
	(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典
	①自治会、商店街振興組合、NPO法人が中心となって“歩いて楽しいまちづくり鎌ヶ谷”ワークショップでの議論が進められており、今後、社会実験等を行いながら、同ワークショップからの提案を反映させたまちづくりの基本構想や施設整備を策定し、それらの計画等に基づいて市が工事を実施する ②地元組織「けやきネット」で策定した初富駅周辺整備構想を取りまとめるとともに、整備に向けて用地を取得する		①道路延長 ②面積 ③	業務取得 業務取得
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	成果指標 (基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
①区域内の通過交通量を減らすと共に、誰もが安心して歩くことができる賑わいに満ちた中心市街地の形成を図る為に、歩道の整備やポケットパーク等の整備を行う ②新京成線の連立事業に併せ、初富駅利用者の安全性、利便性を図る		①道路整備延長 ②用地取得面積 ③都市軸形成促進事業整備箇所数(完了事業数)	業務取得 業務取得 業務取得	
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
安全で、利便性が高く、賑わいのある中心市街地の整備を図る		①鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合 ②既成市街地整備事業着手地区数 ③	市民意識調査 業務取得	

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度()	
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	今後の計画総額	
コスト・指標	(1)総事業費	自動計算	千円	54,529	89,482	213,865	353,338	180,406	0
	①国庫支出金		千円	26,500	9,500	4,950	60,500	81,400	
	②県支出金		千円						
	③市債・その他財源		千円	23,800	62,700	205,200	273,200	58,524	
	④一般財源		千円	4,229	17,282	3,715	19,638	40,482	
	(2)総所要時間(0.5単位)		時間/年	2,395	2,674	3,038	2,835	0	0
	①正職員(時間内)		時間/年	2,294	2,598	2,900	2,700		
	②正職員(時間外)		時間/年	101	76	138	135		
	③非常勤職員		時間/年	0	0	0	0		

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(30年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	m	550	550	550	550	550
②		m ²	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800
③								
(2)活動指標	①	m	550	550	550	550	550	550
	②	m ²	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果 指標等	①	m	0	0	250	250	250	550
	②	m ²	0	0	220	1,488	2,766	2,800
	③	箇所	0	0	0	0	0	
(4)施策成果指標	①	%	45.3	—	—	—	—	(平成27年度)50
	②	箇所	1	1	2	2	2	(平成27年度)1
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	【東武鎌ヶ谷駅西口地区】東口と同様商業拠点の形成に重要な地区であり、都市計画道路等の計画に囲まれた地域であるが、都市基盤整備が遅れている状況である。【初富地区】新京成線の連立事業に併せ駅周辺を整備する必要が生じた地区である。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	基本計画、都市マスタープラン等で都市軸の整備として位置づけられた。中心市街地活性化法が制定された。国交省のくらしのみちゾーンに登録された。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	地元関係者の高齢化 中心市街地活性化施策の動向	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	事業期間の短縮 ソフト面における地域活性化の推進

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 市の都市軸の一翼を担うとともに地域商業拠点として整備を行うことが総合基本計画に位置づけられている中で、都市基盤の整備が遅れていることから引き続き市が積極的に関与していく必要がある。また、ワークショップによる市民が主体、市は事務局としてサポートするという協働のもとに事業を進めており、ワークショップからの提案を具現化させるためにも関与の妥当性は極めて高い。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 当該事業を行うことにより、人と車の分離が行われ、安全で活性化したまちづくりが可能になる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 沿道地権者や市民の安全性、利便性等の向上につながるものであり、区域自体そのものには変更がないため、公平性は保たれる。また、ワークショップは自由参加方式であり、誰もが自らの意見を整備計画に反映させる機会を得られていることから公平である。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 地元とまちづくりについての意見交換会等を継続してきた中で地元の要望に沿って立ち上げた事業であり、現在も、積極的にワークショップを進めていることから、事業の廃止や変更を行うことについて地元の理解を得ることが極めて難しい。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎているか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 区画整理事業、再開発事業、街路事業等では期間と費用がかかりすぎることから、短時間で効果の得る手法を検討した。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 速やかに事業を完了し、整備後の地域活性化に繋げていく。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	協働で作成した構想における事業を関係機関と調整し、コスト縮減を図りながら実施する。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	関係機関との調整によりコスト縮減を図り、事業経費の削減を実施した。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	協働で作成した構想における事業を関係機関と調整し、コスト縮減を図りながら実施する。また、整備完了後の地域活性化に繋げる方策を検討する。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する